

令和6年度 第1回学校評価委員会報告

日 時 令和6年6月6日（木）午後6時

場 所 群馬県歯科医師会館 2階 常務会室

出席者 村山利之委員長、中野玲子委員、高松透浩委員、森島愛一郎委員、高瀬裕志委員、高橋智幸委員、斉藤崇委員、高橋邦夫委員

1 開 会

2 挨拶

村山委員長から令和6年度第1回学校評価委員会の開催について、挨拶が行われた。

3 報 告

高橋邦夫委員から令和5年度学校評価自己評価集計結果から、今年度の重点目標に掲げる「実習中の医療事故」「国家試験合格率」「県内就職率」「定員数の確保」「教員の指導力の向上」といった評価結果について、資料に基づき報告をした。

令和5年度において「国家試験合格率」「定員数の確保」については、目標値に達せず、やや不適切であった旨報告がされた。

歯科衛生士国家試験では60名中54名が合格し、本学院の合格率は90.0%となり、全国平均の92.4%を下回る結果となった。

学生数については、定員50名中23名が入学し、定員割れの結果となった。令和6年度からは専従職員を配置し、県内の高校だけではなく栃木県、埼玉県、新潟県、長野県といった本県と隣接している高校訪問や進路ガイダンスに積極的に参加して生徒募集を行い、定員数を確保していきたい旨報告された。

県内歯科診療所における歯科衛生士不足や本学院の財政基盤の安定のためにも学生数の確保に努めていくことが報告された。

4 協 議

以上の報告事項を踏まえ協議の結果、歯科衛生士不足や財政基盤の安定、学校の運営面や体制づくり等は、学生の質を高め、国家試験合格率100%を目指し、学生を確保することが重要な課題である。学生確保の手段として、オープンキャ

ンパスの開催、学校訪問等が本学院への入学に結びついているので積極的に展開していくよう発言があった。各中学校において授業の一環で実施している職場体験等のプログラムを通じて歯科衛生士の魅力など働きかける必要がある旨、発言があった。

また、学生に対して最新鋭の医療機器等で学ぶことにより、実践力をアップさせ、最新のスキルを身につけられるよう学校内の環境を整備して頂きたい旨、発言があった。

昨年は中途退学者が出たことから学生に対して学修支援だけに限らず、学校生活への適応など幅広い相談に応じるよう努めて頂きたい旨、発言があった。